

深圳レポート

0.1%！深圳のGDP成長率は上半期にプラスへ転じ、
深圳はプラス成長を達成した唯一の一線都市となる！



参考:<https://bit.ly/34wqfQK>

ポイント

1. 域内総生産のプラス成長達成
2. 工業生産の加速回復
3. 固定資産の投資成長率が早い
4. 社会消費財小売総額の下げ幅は縮小
5. 輸出入総額は前年同期に近い
6. 一般会計歳入の下げ幅が縮小
7. 金融機関の預金・貸出残高は急成長を維持

先日、北京・上海・広州・深圳の4つの一線都市の上半期経済データが発表された。深圳はプラス成長を達成した唯一の一線都市であり、一線都市は「上海、北京、深圳、広州」の構造を維持している（重慶は一線都市ではない）。

上半期に新型コロナウイルス感染症による厳しい試練と複雑で変化しやすい国内外の環境に直面して、深圳市は感染拡大の予防と抑制および経済の発展を促進するために企業活動の操業再開、ビジネスと市場の再開を積極的に加速させた。よって、主な経済指標が改善され、経済活動は明らかに回復が進んでいる結果となっている。

2020年上半期 中国都市別 GDPトップ10				
都市	GDP (億人民元)	2019年上半期	成長率(%)	2019年 ランキング
上海	17,356.80	16,409.94	-2.6	1
北京	16,205.60	15,212.50	-3.2	2
深圳	12,634.30	12,133.92	0.1	3
重慶	11,209.83	10,334.76	0.8	5
広州	10,968.29	11,755.54	-2.7	4
蘇州	9,050.00	9,548.27	0.8	6
成都	8,298.63	7,702.37	0.6	7
杭州	7,388.00	6,949.00	1.5	9
南京	6,612.35	6,742.59	2.2	11
天津	6,309.28	10,371.16	-3.9	10

データソース：各地統計局の公開資料

1.域内総生産のプラス成長達成

広東省の域内総生産の計算結果によると、上半期の深圳市の域内総生産は12,634.30億元で、前年同期比0.1%増加し、成長率は第1四半期比6.7ポイント回復した。このうち、第一次産業の付加価値は12.06億元で、前年同期比8.1%減、第二次産業の付加価値は、4553.60億元で、前年同期比2.3%減、第三次産業の付加価値は、8,068.64億元で、前年同期比1.7%増となっている。第一次、二次、三次産業の付加価値の比率は0.1:36.0:63.9である。

2.工業生産の加速回復

上半期に、一定規模以上（注1）工業の付加価値が前年同期比1.6%低下し、下げ幅は第1四半期比12.1ポイント減少した。月次で見ると、工業生産は回復が加速する傾向を示し、1月から2月、第1四半期、1月から4月、1月から5月、上半期における一定規模以上工業の付加価値の成長率は、それぞれ-18.5%、-13.7%、-9.5%、-5.6%、-1.6%となっている。上半期に、一定規模以上製造業の付加価値は前年同期比1.3%低下し、下げ幅は第1四半期比12.2ポイント減少した。一定規模以上の電力、熱力、ガス、および水の生産および供給産業の付加価値は、前年同期比0.3%低下し、下げ幅は第1四半期比8.1ポイント減少した。一定規模以上鉱業の付加価値は、前年同期比8.8%低下し、下げ幅は第1四半期比14.5ポイント減少した。上半期に、先進製造業の付加価値は前年同期比2.4%増加し、成長率は第1四半期比12.6ポイント回復した。ハイテク製造業の付加価値は前年同期比2.2%増加し、成長率は第1四半期比11.7%回復した。上半期に、全市の一定規模以上工業企業の総利益は前年同期比22.2%増加し、成長率は第1四半期比47.2ポイント大幅に回復した。



※画像はイメージ

3.固定資産の投資成長率が早い

上半期、深圳市の固定資産投資は前年同期比7.8%増加し、成長率は第1四半期比23.9ポイント増加した。月次で見ると、固定資産投資の成長率は月ごとに回復しており、1月から2月、第1四半期、1月から4月、1月から5月、上半期の成長率は、それぞれ-22.9%、-16.1%、-8.6%、-0.1%、7.8%である。上半期の第一次産業への固定資産投資は前年同期比13.3%増加し、第二次産業への固定資産投資は前年同期比1.8%増加し、第三次産業への固定資産投資は前年同期比8.7%増加した。インフラ投資は前年同期比3.7%増加した。民間投資は前年同期比4.4%増加した。

4.社会消費財小売総額の下げ幅は縮小

上半期に、深圳市の社会消費財小売総額は3,640.15億元で、前年同期比14.8%低下し、下げ幅は第1四半期比8.1ポイント減少した。月次で見ると、社会消費財の小売総額の下げ幅は縮小傾向を示しており、1月から2月、第1四半期、1月から4月、1月から5月、上半期の成長率は、それぞれ-20.5%、-22.9%、-20.1%、-16.5%、-14.8%である。

5.輸出入総額は前年同期に近い

税関統計によると、上半期の深圳市輸出入総額は13,356.75億元で、前年同期比0.5%低下し、下げ幅は第1四半期比11.2ポイント減少した。そのうち、輸出は7150.37億元で、前年同期比5.9%低下し、下げ幅は第1四半期比15.2ポイント減少した。輸入は6206.38億元で、前年同期比6.5%増加し、成長率は第1四半期比5.8ポイント増加した。月次で見ると、輸出入総額の下げ幅は縮小傾向を示しており、1月から2月、第1四半期、1月から4月、1月から5月、上半期の成長率は、それぞれ-17.6%、-11.7%、-6.2%、-2.5%、-0.5%である。

6.一般会計歳入の下げ幅が縮小

上半期に、深圳市の一般会計歳入は2,030.92億元で、前年同期比4.7%低下し、下げ幅は第1四半期比8.1ポイント減少した。一般会計歳入は1,978.71億元で、前年同期比14.1%低下し、下げ幅は第1四半期比4.2ポイント減少した。月次で見ると、一般会計歳入の下げ幅は縮小傾向を示しており、1月から2月、第1四半期、1月から4月、1月から5月、上半期の成長率は、それぞれ-10.9%、-12.8%、-9.9%、-9.3%、-4.7%である。

7.金融機関の預金・貸出残高は急成長を維持

6月末の時点で、深圳市の金融機関（外資を含む）の人民元・外貨預金の残高は93,980.38億元で、前年同期比16.7%増加した。金融機関（外資を含む）の人民元・外貨貸出の残高は65,323.02億元で、前年同期比15.5%増加した。



※画像はイメージ

注1:一定規模以上:工業企業の場合、年間売上が2000万人民元以上の企業を示す

「すべての端末が世界を理解できるように」を使命とする 世界有数のAI 3D感知技術ソリューションのプロバイダー

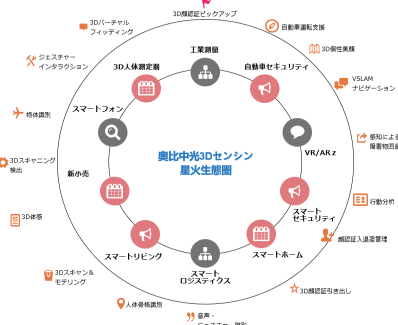
社名	深圳奥比中光科技有限公司		英語名	orbbec	
代表者	黄源浩		URL	http://www.orbbec.com.cn/	
所在地	深圳市南山区学府路 63 号ハイテク産業開発区連合本部ビル 12 階				
売上 (RMB)	数億人民元	従業員 (人)	800 以上	創業年	2013 年
資本金 (RMB)	7875.7687 万人民元				
サービス内容	3Dセンシングと人工知能ビジョン技術に焦点を当て、3Dセンサーカメラ、3D顔認識、3Dパターンプロジェクション、3Dスキャニング、ロボット3Dロボットビジョン、リビングルームエコロジーなどの製品および業界ソリューションをユーザーに提供する。				

AI 3Dセンシングは、人工知能に3Dビジョン能力を提供する肝心な基盤技術である。奥比中光は、外国の技術的独占を打ち破り、チップ、アルゴリズムから、システム、フレームワーク、上位層アプリケーションサポートまでのフルスタックの技術的強みを持っている。AI 3Dセンシングの分野での特許出願数は世界のトップ3にランクされており、世界で4番目、アジアで初めてAI 3Dセンシング技術の全範囲を習得しているプラットフォーム型のイノベーション企業となり、業界でも競争優位性がある注目企業である。奥比中光の3Dセンシング技術には、光学、ビジョン、アルゴリズムソフトウェア、ハードウェア、インターネットなどの分野に関わり、技術パラメーターは、マイクロソフトの体感型ゲーム機Xbox KinectおよびAppleのPrimesenseなどの製品よりも優れている。

「すべての端末が世界を理解できるように」という使命のもと、奥比中光は、最先端のAI 3Dセンシング技術をモバイル端末、スマートリテリング、スマートサービス、スマート製造、スマートセキュリティ、デジタルホームなどの分野に画期的に広く適用して、伝統業界のモデルシフトとアップグレードに活力を付与する。現在、奥比中光は、アント・フィナンシャル、OPPO、中国銀聯、HP、ボッシュなどの有名なブランドを含む、2000を超える世界中の顧客にサービスを提供している。

業界ポジション:アジアで初めて、また唯一の3Dセンサーを量産できるユニコーン企業

チームの中核メンバーは、アメリカのマサチューセッツ工科大学、スタンフォード大学、シンガポールの南洋理工大学などの有名大学や、IBM、AMD、TAMRON、Global Foundryなどの国際企業から来ている。



完全独自知的所有権

コアアルゴリズム、コアチップからハードウェア完成品まで、完全に独自の知的財産権を持ち、3Dセンシングの核技術のほとんどを習得している、世界で数少ない3Dセンシング技術メーカーの1つである。

成熟した技術プロセス

3D体感高度センシング製品は2015年から量産されており、アルゴリズムとハードウェアも随時に更新される。2017年の非携帯電話事業の毎月生産量は100KPCS。

業界の競争構造

奥比中光は、消費者向け3Dセンサーを量産できる唯一の中国企業であり、Apple、Microsoft、Intelなどの国際的な大手企業と競争できる唯一の中国3Dセンサー技術メーカーでもある。

強力な自主開発能力

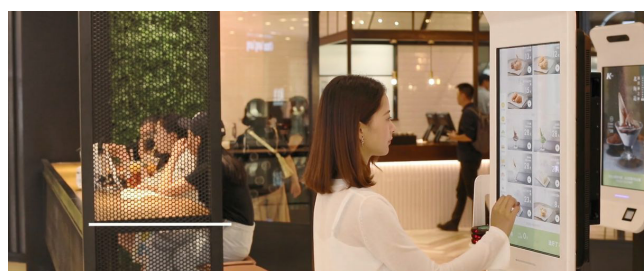
チップの研究開発、アルゴリズム開発、光学開発、モジュール開発から、性能消費、コスト管理まで、すべてのポイントが自主開発と管理が可能である。

カスタマイズサービスのサポート

製品は完全に独自開発となるので、構造、サイズ、機能定義など、顧客のニーズに応じて高度にカスタマイズが可能。

応用分野

製品はリビングルームエコロジー、3Dスキャニング、ロボット、セキュリティ、ファイナンスなど幅広い分野で応用されている。



応答シーン：ケンタッキークーの顔認識支払 ※画像は「知乎」から引用

スマートシティ化は サービスの透明化に

筆者がいる深圳は中国の「シリコンバレー」と呼ばれていて、Huawei、Tencent等の大手IT企業と政府間の連携が多様化しています。特に、スマートシティ化においては中国国内のスマートシティ発展ランキングで4年連続1位を獲得しています。行政手続き、政府ガバナンス、交通管理、環境等の分野でのビッグデータ収集と分析システムの実装が進み、着実に成果をあげています。

なお、スマートシティに欠かせない5Gの基地局建設ですが、2020年8月17日に深圳市長は、深圳市のすべてのエリアで5G NSAネットワークが整備されたことを発表しました。現在、深圳市内の5G基地局は4.6万個を超えていて、世界発の5G都市となっています。

弊社もHuawei製5G対応タブレットを備えましたが、テレビ会議やウェビナーでは、Wi-Fi利用より通信が安定し、ストレスなく利用することができています。下記、左上に5Gが表示されています。



さて、日常生活で深圳のスマートシティ化を実感しているのは、ガバナンスとサービスの透明化にもあります。深圳市のシートベルト義務化が完全に定着したのも、スマートシティ化の一貫である交通監視カメラが数え切れないほど据え付けられたことも影響しています。監視カメラによる厳重な取り締まりで、違反者には即罰金が課されます。いつ、どこで撮られるか分からないので、タクシーの運転手も乗客がシートベルトをしないと発車しなくなっています。

唯来企業管理諮詢（深圳）有限公司
副總經理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。
現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日
本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティン
グに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



また、空港サービスも透明化になりつつあります。かつて中国では、旅客の預けたスーツケースの紛失や破損が多発していましたが、深圳空港は定点カメラでスーツケースの取り扱い現場の映像を流しており、自分の荷物はQRコードを使用して場所を特定することができます。

QRコードで荷物検索



作業員が荷物を降ろしている様子を
確認できるモニター

これからは、スーツケースが乱暴に扱われる心配は無くなるでしょう。このようにスマートシティ化によるサービスの透明化が、サービスの質の向上にも繋がり、延いては国民に快適な生活を与えていると言えるでしょう。

最近では政府のスマートシティプロジェクトに外資系の参入事例も出ていますので、日本の技術との融合も期待するところです。



（レポートは2020年8月15日現在の情報）



深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区软件产业基地5E棟522号 518061
TEL:86-135-3089-3085
<https://micsz.jp/>